



## ■～書道作品を募集します～

### 「室戸世界ジオパークセンター×防災科研 書道展」

室戸沖合に海底地震津波観測網が敷かれていることをご存知でしょうか。

室戸世界ジオパークセンターの敷地内には観測網の陸上局があり、2016年度の運用開始以来、観測データの中継地として重要な役割を果たしています。

今年、新たな観測網として南海トラフ海底地震津波観測網整備（N-net）が加わりました。

これを記念して室戸世界ジオパークセンターで書道展を開催する運びとなりましたので、書道作品を募集します。あなたの書が陸上局の看板になるかも！



※出品いただいたすべての作品を室戸世界ジオパークセンターで展示します。

※審査を行い、大賞や特別賞を数点選出します。①は大賞作品を看板に加工し、陸上局に設置します。

#### ●募集期間

2025年1月6日（月）～1月20日（月）必着

#### ●出品先

観光ジオパーク推進課

〒781-7101 室戸市室戸岬町1810番地2

※室戸世界ジオパークセンターへの持ち込みもできます。

#### ●書道展開催期間

2025年3月1日（土）～31日（月）（予定）

※注意事項等の詳細は室戸世界ジオパークセンターのホームページに掲載します。

また、チラシを広報むろと1月号に折り込む予定です。

#### ●募集作品

次の①②両方またはどちらか1つを出品してください。①は指定の字句です。

①室戸ジオパーク陸上局

②テーマ “室戸ユネスコ世界ジオパーク”（室戸ユネスコ世界ジオパークにまつわる言葉なら何でもOK）

## ■【お問い合わせ先】

室戸ジオパーク推進協議会事務局 ☎22-5161  
メール info@muroto-geo.jp



YouTube



Facebook



X (旧 Twitter)



Instagram

## 室戸とSDGs No.31

Muroto Voice 第8弾『尾崎太刀踊り』へ  
コメントが届きました



まちづくり推進課  
地域プロジェクトマネージャー  
とおえだ すみと  
遠枝 澄人



Muroto Voice シリーズ最新作で「尾崎太刀踊り」の取材映像を公開しました。佐喜浜町尾崎地区では、およそ200年前の江戸中期から太刀踊りが奉納され続けています。今回は、同じく高知県内で太刀踊りが奉納されている土佐清水市の方からの視聴コメントをお届けします。映像や記事全文は右下QRコード、またはインターネット検索にてご覧ください。

### ■土井恵治（一社）土佐清水ジオパーク推進協議会 事務局長

太刀踊りは、高知県、愛媛県の各地で伝承されている芸能で、広くは花取踊りと言われる。ただ太刀の長さ、刀の先に花飾りをつける/つけない、太鼓の調子、振り付けといった踊りの様式については地区ごとに異なる。その目的も、地域の結束固めや五穀豊穰祈願、戦国時代の戦闘様式を模したものなどさまざま。ルーツが同じで変容していったのか、同時発生的なのかも判然としない。夏目漱石の「坊っちゃん」では、松山で催された日露戦争祝勝会の余興において、高知から来た30人が太刀を振った踊りの勇壮さが語られている。明治時代には太刀踊りの遠征もあったのかと思わせる。



▲土佐清水ジオパーク 土井さん

さて、今回の映像は「いずれはね踊り子もいなくなるでしょう」「1年でも長く存続できたらええんかな」という、中村晴文・尾崎太刀踊り保存会会長のセリフから始まる。あきらめというより達観した重い言葉だ。復活した踊りが、コロナ禍で練習を休むと途絶えてしまうという危機感が、コロナ感染のおそろしさに勝る。受け継いできたものを中断することなく続けようとする地域の方々の思いは、悲壮感すら漂う。

土佐清水ジオパークにおいても、花取踊り（太刀踊り）が下ノ加江、大岐、浦尻、貝ノ川などで伝えられている。尾崎地区と同様、一時途絶えたものを復活させた地域もある。人口減少によって30代40代の青年壮年の割合が少ない。担い手の問題は、農林水産業や地場産業だけでなく、地域の自然や文化を持続可能な形で伝えていこうとするジオパーク活動に、重くのしかかる。

この映像は、単に伝承文化を記録として残すだけのものではない。熱意だけでは済まない伝承の難しさや深刻さなど、担い手の複雑な思いが表され、伝承につきまとう問題が提起されている。この点において、映像そのものがジオパーク活動の中で重要な意味、価値を持っている。

※太刀踊りの概観、土佐清水での状況は「新土佐清水市史」を参考

土佐清水市貝ノ川の花取踊り（太刀踊り）▶  
出典：新土佐清水市史



▲映像はこちら